

令和4年7月22日

芦屋市企画部市民参画課
課長 川口 弥良 様

(あしや市民活動センター指定管理者)
特定非営利活動法人あしや NPO センター
事務局長 橋野 浩美

災害時対応セミナー報告書

- 1 日 時：7月16日(土) 10:00～15:00
- 2 会 場：リードあしや 会議室 CD オープンスペース1
- 3 担 当：金子
- 4 参加者：34名(講師含む)
- 5 講 師：樋口貴洋氏(神戸消防局消防局 東灘消防署)・津久井進氏(兵庫県弁護士会)
- 6 事業詳細
 - (1) 目 的：市民を中心に多様な団体や行政と連携し、災害ゲームを通じて地域の防災を考え災害マネジメントを深める。
 - (2) 内 容：
 - 10時～12時 災害協力シミュレーションゲームダイレクトロード実施(神戸消防局提供)
 - 12時～13時 昼休憩(防災食試食(MT-NET(株) 協力)
意見提出及びアンケート(ゲームの感想、災害後の出来る事やすべき事など)
 - 13時～15時 意見交換津久井先生の進行で災害時ケースマネジメントをふまえて分析解決していく。
 - ・ダイレクトロードとは、各自が持つ情報を共有して統合し、全体像を把握していくカードゲーム型の防災訓練教材である。神戸市消防局職員が開発し無料で使える教材がダウンロードできるようになっている。
 - ・ダイレクトロードの進め方は、以下の通り
 - ①班毎に町内の地図を配し、進行役が口頭で災害の経緯と状況を説明(「サイレント」と言葉をかけられたら静かに次の災害の状況を聞く)
 - ②各自持っている情報カードの内容を口頭で出し合い、4枚の指示書を班で完成させる。
 - ③ゲーム後に自分の周りでどのように活用できるか考える。
- 7 アンケート結果：
 - (1) 役に立ちましたか?(15人回答)
とても役に立った14人 少し役に立った1人 物足りなかった0人 役立たなかった0人
 - (2) 「あなたの大切なもの」を体験したご感想をお書きください。(20人回答)
 - ・自分が最後まで残しておきたい物・人・事柄など再確認して、これから生きていこうと思った。

- ・「自分の命」を考えなかったことは「うかつ」でした。
- ・あっという間に自分の大切なものが失われてしまった。災害とはそういうものだと思えて感じた。
- ・大切なもののシミュレーションができ、そのための対応策を考えることができた。
- ・これは仮想ではあるけれど、実際これが失うとなると喪失感は大きいと思うし、非常に苦しい気持ちになるだろうと感じた。
- ・現実におこる前に対策しようと思いました。
- ・これまで失う体験もしなかったのでとても辛かった。
- ・初めは思い出のあるものだったのでなんとかかなかなと思っていましたが、人がだんだん失っていくととても苦しい気持ちになりました。あらためて友人や家族の大切さに気付くことができました。
- ・大切な人、物、事について、改めて考える機会となり、貴重な体験となってよかった。
- ・「大切なもの」を消していくだけで軽い喪失感を感じました。
- ・大切なものを塗りつぶす時が、一番罪悪感のようなものを感じた。
- ・物はどうにでもなるが、人は取り返せない、かけがえのないものだったと思った。日ごろから大事にしたい。
- ・大切な人から消えていくと不安になった。
- ・大切なものであっても大したことなく家族の大切さの重さを感じた。
- ・ショックでした。
- ・大切なものを守るために事前の準備を大切にしたいです。
- ・身を切られるような辛さを感じたが、後4つ無くなれば、自分の中でなんとかするだろうが全くなくなるところあった。
- ・自分の大切なものが次々と消えていくのは本当につらかった。
- ・あまり気分が良いものではなかった。

(3)「ダイレクトロード」を体験したご感想をお書きください。(20人回答)

- ・若い人たちの力は大きい。私たち老人は従うしかないと思えて思った。正しい情報が大事。
- ・初めて知った経験で、知識や体力の必要性を感じました。
- ・実感を持って訓練できた。
- ・適切な指示をすることは大事だと感じた。
- ・とても面白かったです。正確な支持の大切さがわかりました。
- ・普段あまり人とコミュニケーションをとらないので、とても楽しく学べた。
- ・自分の知っている情報を共有することの大切さに気付きました。一人ではできないことでも周りの人たちと協力することで、誰かを助けることができるのだと気づきました。同じ世代と話すのではなく、異なった世代とも話すことができとてもよい機会でした。
- ・非常時におけるコミュニケーションの大切さを理解できた。
- ・見た、読んだ情報を正確に伝えるには何度もコミュニケーションが必要だと感じました。
- ・最初は意外と簡単じゃないのかなと思っていたが、実際にやってみてすごく難しかった。

- ・災害時でもたくさんの情報共有をすることがつかえると思った。
- ・非常に難しかった。実際に災害が起こった時に初対面の人たちとコミュニケーションを取り合い、動くことはとても難しいのだと思った。
- ・カードの内容を正確にわかるように伝えるのが難しかった。状況を把握して情報収集をして対応を考えるのがよかった。
- ・これほど真剣になれるゲームは無かったです。
- ・少しでも細かい指示によって助かる命があることがわかった。
- ・情報を伝えあうことがとても大切でした。
- ・正確に伝え、その情報から組み立てることの難しさを感じたが楽しかった。
- ・情報を正確に把握すること、瞬時の判断がその後の状に強く影響が出る。いかに人に自分の持っている情報を正確に伝えることが重要である。
- ・難しかった。音楽も相まって緊張した。言葉にして伝えるのは難しかった。

(4) 災害発生から時間の経過とともに変わる状況を踏まえ、すべき事考えることをお書きください。

(20人回答)

- ・地域の人たちとの協力が大事だが、今のところその人との面識もないので協力どころではないと思った。まずは近隣と知り合っておこうと思った。
- ・最優先に自分の命が助かることを考えます。
- ・普段からの準備、訓練の大切さ、伝え方の工夫など
- ・地域の地図をよく知っておき、近くで起こった災害に対して身の回りにある用具を用いて適切に対処することが大事だ。
- ・状況把握、近所との連携、代用品を学ぶこと。
- ・もしものために家に食料を備蓄したり、家具を固定したりしようと思った。
- ・まず第1に自分の身を守る、自分が人助けに行動できないなら率先避難者として非難する、自分1人でしようとせずに周りの人たちに声をかけて助けを求める、一人でいて家族が心配でも避難していると考え戻ったりしないようにする。
- ・実際には、平常心が無くなり、時間を経過とともにあせる気持ちが増幅すると思うが、的確な状況判断ができるように、日ごろの心の備えが必要と感じました。
- ・日ごろから家具の固定、家族と避難所の話し合いなどできることをしようと思う。
- ・今日の4つの課題のうち、サイレントタイムで新しい情報が入る度に、取り組むべき優先順位がむずかしくなり判断を揺さぶられた。
- ・トリアージのように、厳しい判断も迫られるかもしれないと感じた。
- ・情報の収集、日ごろの訓練で想定できること、応用できることを考える。
- ・大切なことばかりなので、守るべきこと、守る方法、たくさん学ぶ必要があると思う。
- ・少しでも早い指示が必要だとわかった。
- ・必要な情報を収集すること。
- ・辛いですが、優先順位を考え対応すること。
- ・災害が起こった時に必要な物、少し時間が経って必要なものの備蓄は必ず準備をしないとい

けないと強く感じております。

- ・近所の人とのコミュニケーションは必要だと思った。それがあると無いで生存率が全く違うんだなと思った。

(5) 感想など（15人回答）

- ・官と民との連携が理解できた。
- ・ゲーム形式で防災について学べてよかった。
- ・今までケースマネジメントについて何も分からなかったが、今回の抗議を聞いて少しだけ理解することができたので良かった。
- ・カードを組み合わせるのが凄く分かりやすかったです。
- ・災害について考える機会になりよかった。一人一人ができることを考えることが大切であり、復興を早めるために大切なことだと思いました。
- ・様々な実際にあった事態を通して防災・減災・復興を学ぶことができた。一人一人の行動で助かる命があることを知った。
- ・今後の防災活動に非常に大事なことを学ぶことができました。
- ・色々な制度を分かりやすく知り、一人一人状況が違う事情も実例を踏まえて知ることができてよかったです。
- ・説明と質問をうまく混ぜていただいてよかった。
- ・一人一人に寄り添い、一人一人にあったケアをすることで、救える人が多くなると学んだ。災害時だけでなく、普段から助け合うことで本当に必要な時に助け合えると思う。支援の方法をカードで表すことでより分かりやすくなっていた。
- ・Yes/No のゲームが自分と全く違う意見があって面白かった。
- ・個人情報の在り方を考えていくことは情報化の今の時代に必要だと思った。
- ・被災された方、一人ひとりに寄り添うこと、誰の立場に立って債権を考えるか、人に器を合わせるという津久井先生の一言一言が深く重みがあり、災害ケースマネジメントを学ぶことができました。社協職員として今後の企画や災害ボランティア養成に役立てたいです。
- ・個人情報保護の理解が深まってよかった。

8 振り返り

- ・コミュニケーションの大切さを確認してもらえたと感じた。大切な人や物が消えていく事も始めに疑似体験し、それをふまえての災害時の対処を色々な想いをもって疑似体験できたとアンケートの内容からも読み取れた。
- ・昼食も色々な種類の防災食を各自で作るところから体験でき、商品紹介やトイレなどの使い方話もあり、日常ではあまり目に出来ないものも見ることができた。
- ・災害直後からのケースマネジメントでは、取組事例から法律や支援内容と理解しやすく、被害者生活再建カード「ゲームで学ぶ」の紹介もあり興味深い内容となった。

